

# 劔八峰

昨年の北方稜線、源次郎尾根に続き

今年は八峰を目標に

2015/07/30～08/02

H 竜 智

7 / 3 0

川越駅 19 時集合で扇沢へ向かう。オリンピック道路を通りいつもの有料トンネル 22:00 以降は無料になるので 5 分前に着く。210 円をケチり 22:00 迄待て。扇沢無料駐車場へ 11:30 頃到着。いつものように車の後ろへスペースを作りテント張る。2 人はいつものように宴会。自分がテンバまで持ち上げようとしたビールまで飲んでいる。自分は医者からもらった咳止めの薬を飲む。明日のトロリーバス始発は 7:30 なのでゆっくりに寝れる。

7 / 3 1

無料駐車場は満杯だが止めるスペースを求めて何台も入ってくる。舗装されていなくホコリがひどい。そこで共同装備を分け 6:30 頃扇沢駅に向かう。金曜日なのに混雑している。夏休みなのか観光が多い。室堂まで 3 回の乗り換えがあるが臨時を出すようでスムーズに室堂まで行けた。雲一つない快晴。暑い。雪渓は昨年より少なくて感じた。剣御前までの登りは体に幾ら水分供給しても足りない位に感じる。13 時ごろには剣沢テンバに到着。H 川さんテントの前にツエルトでタープ張その下で

8 / 1

ごろ寝。2 人は小屋からビール調達し宴会している。加わりたいが体調が今一で飲めないクソ。明日は早いので料理長 H 川さん夕飯作り 20 時ころには寝る、満月で明るく満点の星とは云えない。



3 時起床 4 時出発、朝は行動食それぞれいつ食べても OK。剣登っているヘッドランプが見える。皆早。剣沢雪渓を降りるのは 3 パーティ我々トツプだったがアイゼン装着に時

間かなり追い越される。1 番手 5 人は源次郎尾根を登る。我々ともう一つのパーティールが長次郎谷を登る。ガイド登山の 4 人。我々は直登したがガイドはコース取りが上手く休憩ポイントも安全な所で取っているゆっくりだが早い。このメンバーは長次郎谷を詰めた劔岳に向かっている。北方稜線か。本峰まで長次郎谷を詰めれば最も早い。我々は 5.6 のコルへ。登攀者はいない。3 の窓側へ少しトラバースし直登する。六峰は結構長い。六峰の懸垂下降支点スリング結構新しいので使わしてもらう。50m 1 本で行けると書いてあったがわからないのでダブルでつないで下降。ロープがあちこちに引っかかっているので修正しながら懸垂下降。1 本で行けるかと思うが。7 峰も道がしっかりしていて

問題ない。7峰も懸垂下降。7峰から3の窓方面に巻いて思っていたが踏み跡がはつきりしていたので巻き過ぎて8峰を巻いてしまう。後ろから来たパーティーは巻いてそのまま行ってしまった。これはまずいと思い8峰らしき所を直登する。しかし上部がどうなっているかわからず協議のうえ八峰直前からハイマツに支点取り懸垂下降することにするがちょうどよいハイマツが無く少し回り込んだハイマツを使う。回り込んでいる為回収がどうか心配したが案の定回収が思わしくない。ラスト懸垂K坂さんに途中のテラスでロープをずらしながら下降してもらおう。チンネ左稜線。パーティーが怒鳴り合いながら登っている。「張れといっただろう」ここから池の谷ガ

行けると思い下降するも足りないことがわかる。5m位再度登ると懸垂の支点があった。ルンゼなので落石多い。2ピッチで下降する。ガラガラのカリ。昨年の記憶が少しある。ここから本峰まで2時間半かかる。北方稜線の方が八峰より難しく感じる。とりあえず勘で行くも何回か間違ってしまう。昨年はロープ無しでクライムダウンした所が足取り危ないので懸垂下降する。本峰17時山頂は独り占めだが皆バテバテ。ここからテンバまで3時間はかかる。明るいうちに鎖場通過すればあと是一般道だからヘッデンで行ける。日が日本海側に徐々に沈んでいく。後立山辺と白山当たりの空に雷発生している。2.5L持った水がもう残り少ない。途中H川さんが医療用水500m1を3人で分け喉

を潤す。剣山荘の雪解け水が美味しかったこと。テンバに付いたら皆ばったり。16時間も歩いた。2人も食欲がなないと夕食作らず。飲む量も少ない。明日はゆっくりでいいよと言うも朝は周りがバタバタとゆっくり寝てられない。8/2

朝飯もゆっくり作りテント撤収し8時に帰路に着く。今日も幾分雲があるが天気は良い。雪解けは急速に進んでいた。いつもの温泉に入り川越へ

リーダー H竜  
メンバー H谷川・K坂

### 7/31(コースタイム)

剣沢テンバ発(4:00)=長次郎谷出合い(5:50)=5,6のコル(8:20)=6峰(9:35)=7峰(11:10)=8峰付近(12:00)=下降点(13:10)=北方稜線ルンゼ(14:20)=長次郎の頭(16:00)=劔岳(17:00)=テンバ(21:30)

# 北アルプス「劔岳」

## 三年越しの八ツ峰

H谷川

二年前、徳重さんから「行きたい山はないのか？」と聞かれ、「八ツ峰に行きたい！」と答えると、「一峰から登るなら行くよ」と言ってくれ、H竜さんと3人で夏に行く計画をした。山行に向けて藤坂ゲレンデでトレッキングをすることになっていたが、その一週間前に徳重さんは旅立ってしまった。

十分とは言えないが、ジムトレやロープワークもしてきた。今年、八ツ峰に行く前にジャンダルムに行き、岩稜歩きに慣れたいと思ったが天気が悪く中止になってしまった。

当初の計画では一峰からだったが、今の実力では難しいので5・6のコルから取付き上半分の計画に変更し、K坂さんも加わり念願の八ツ峰へ。

7(30)木夜川越に集合し、H竜車で扇沢に向かう。無料で駐車場にテントを張る。H竜

私たちが行けるか？  
もっとトレッキングと、トレッキング山行をしないと無理との結論を出し、その年は「前穂北尾根」「北穂東稜」に行き、昨年は「赤岩尾根」「北

7(31)金7:30始発の観光客も交ざり混雑した乗り物に乗り室堂へ。  
雲一つない晴天の中、大汗を掻きながら劔沢テント場に到着。日陰がないのに、調子の悪いH竜さんは外で寝てしまう。ツェルトで日陰を作つてあげる。

去年はテント場一面が雪だったが、今年は雪が少なくテント場にはほとんどなかった。明日は4時出発と早いので早々に就寝する。外は満月に近く、月の光で明るい。

8(1)土3時起床、4時出発。コーヒーだけ飲み、月明りで暗闇ではないがヘッドランプを点け歩き出す。  
劔沢雪渓を下るため、アイゼンを装着する。昨年持ってきたアイゼンと思い込み、家で付ける練習もして来たが違

8(2)土3時起床、4時出発。コーヒーだけ飲み、月明りで暗闇ではないがヘッドランプを点け歩き出す。  
劔沢雪渓を下るため、アイゼンを装着する。昨年持ってきたアイゼンと思い込み、家で付ける練習もして来たが違

途中外れるはで、大変だった。長次郎雪渓の合に着き雪渓登りとなる。外れないように真っ直ぐ登るように心掛けた。事故に繋がることなので反省です。  
熊の岩手前からガレを登り、5・6のコルに出る。  
6峰は3の窓側を快適に登り懸垂下降する。回収の際、ロープが引つ掛からないか心配したが無事回収。  
7峰も迷わず登り、懸垂下降。  
8峰へは3の窓側に巻道がはつきり付いている。巻き過ぎたよう登れそうな所を2回登るが、上まで行って支点があるか不安になり、途中ハイマツに支点を作り、懸垂下降で後続パーティーが巻いて行ったところまで降りた。その後2回懸垂下降し、池の谷

ガリーに出た。巻いたのは8峰なのか、8峰の頭なのかかわからず。見覚えのあるガリーに連れられホツとするも、緊張の連続で歩いた北方稜線の記憶がよみがえってしまった。

ルートを見つげながら慎重に歩く。17時本峰に到着。下山途中ヘッドランプを点ける。遠くで雷が発生し「近づかないで」と祈りながら、水もなくこんな所でビバークは出来ない」と慎重かつ必至に下山をする。医療用の水も3人で分けすべて飲み干した。剣山荘に着いて飲んだ水はおいしかったあ。

21…30テント場に到着。長い1日だった。それまでの緊張が解け、テントの中に入りボタンキュウ！

食事もする気にならず、スープだけ飲みシユラフへ。

8/2(日)ゆっっくり朝食をと

りテントを撤収し下山する。3日間天気恵まれ、怪我もなく、3年越しの八ツ峰から無事下山できて本当に良かった。

何があってもおかしくない場所に足を踏み込んでいるのだから、これからも細心の注意を払って山に行こうと思っています。

(コースタイムは、H竜さんの記録を参照)

